



Compliance Handbook for
Eisai Network Companies

Global | Compliance
Handbook

hnc & Compliance

コンプライアンス・ハンドブック **第9版**

Eisai Network Companies
**Compliance
Handbook**

経営層からのメッセージ

Japanese Version

October 2023



CEOからのメッセージ

企業におけるコンプライアンス事案はホワイトカラークライムとも言われており、個人、企業双方に不幸な結末をもたらします。犯罪の意図がある事案、例えば公金横領などにおいて、社は社員に損害賠償の請求をしたり、刑事訴追をしなければならないケースもあります。全ての事案で当該人物は社を去ることになります。今一つの事例、これは会社のためだとして行われる事案があります。その一つでもある価格談合や生産調整などのカルテル事案などでは一時の収益はみせかけでアップするかもしれませんが、その数百倍にも及び課徴金が課せられ、社員の一部や役員においても実刑が科せられることとなり、全ての係争が終結するのに10年近くを要するものとなります。全く割に合うものとはなりません。

それに加えハラスメントといった労働法事案なども被害にあわれた人々の痛みは甚大であり、大きく社の統制を揺るがすこととなります。

Dataや品質、情報についてのごまかしや虚偽報告は重大なリスクを社にもたらします。これらは社の根幹を揺るがすこととなり、信用の失墜、社業の非継続などの結末をむかえることもあります。社が傾いたり、不本意なる企業統合に巻き込まれる端緒ともなります。

誰にもバレないからやる、自分の周りがやっているからOKだ、自分に裁量権があるからその範囲で多少のことは大丈夫だといった意識は全てその当事者や組織が腐敗していることを意味します。いかなる意味でも情状酌量の余地はありません。

エーザイにとって最も大切な患者様をはじめとするステークホルダーズとの信頼はコンプライアンスが守られていることが絶対条件・前提であることを、この際皆様としっかりと共有するものです。

2021年3月
代表執行役CEO

内藤 晴夫



コンプライアンス
委員会
委員長からの
メッセージ

世界中で生活様式やビジネスの様式が劇的に変化しています。特に、日々の生活においてもビジネスにおいても人と人とが顔を合わせる機会が大きく減っており、コミュニケーションを

難しくさせています。今、私たちは従来の方法にとらわれることなく変化に対応しなければならない状況にあります。

このようにビジネスのあり方が変わっていったとしても、コンプライアンスについては変わることがありません。私はエーザイにコンプライアンス委員会が設置された当初から20年以上にわたり、エーザイでのコンプライアンス推進に対し助言を続けており、現在エーザイには素晴らしいコンプライアンス・プログラムとコンプライアンス推進体制が整っているとと言えます。しかしながら、コンプライアンスに対する意識が欠ける社員や、コンプライアンスを遵守しない社員がいれば、これは無意味なものになってしまいます。

エーザイのコンプライアンス・ハンドブックはグローバルで共通です。このハンドブックには国や地域にかかわらず、一人ひとりが守らなければならない大切なことが集められています。そして、このハンドブックに示された内容は、エーザイにおける20年以上にわたるコンプライアンスの歴史が重ねられたものであり、その本質は改訂を経ても変わることがありません。

2021年3月
コンプライアンス委員会 委員長
スチュアート ミケルジョン



チーフ
コンプライアンス
オフィサーからの
メッセージ

2022年6月の株主総会において、会社の根本原則が記載された「定款」の変更が行われました。この定款変更により、当社は、hhc理念を基軸として、日常と医療の領域で生活する人々

の「生ききるを支える」こと、並びに日本発のイノベーション企業として人々の健康憂慮の解消と医療較差の是正という「社会善」を効率的に追求することが企業理念に盛り込まれました。

また、2023年7月7日（日本時間）にはLEQEMBIが米国FDAからフル承認を取得しました。まさに定款に定めたイノベーション企業を実証したことになります。LEQEMBIの米国フル承認については、世界中のメディアから認知症治療に革新をもたらしたと大きく報道され、認知症当事者様やそのご家族、医療関係者や介護者の皆様から感謝と期待の声が数多く寄せられております。我々は、日に日に大きくなっていく社会からの期待に応えるべく、認知症治療に取り組むパイオニアとしての誇りを胸に日々の業務に取り組んでおります。

一方で、社会からの当社に対する期待こそが当社のコンプライアンスの基準となっていることを今一度皆様に認識していただきたいと思っております。社会善を追求すると謳っている会社が、社会から見たら悪という行動を取った場合には、厳しく糾弾され、たちまち社会の信頼を失うことになります。社会からの信頼を裏切ることなく、企業理念の実現に向かって皆様と共に努力していきたいと強く思っております。胸を張り背筋を伸ばし、社会の期待に外れることなく日々の業務に臨んでいただきますようお願い申し上げます。

2023年9月

チーフコンプライアンスオフィサー

高橋 健太

